

選択的評価事項に係る評価

自己評価書

平成21年6月

群馬県立女子大学

目 次

I	大学の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	3

I 大学の現況及び特徴

1 現況

- (1) 大学名 群馬県立女子大学
- (2) 所在地 群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1
- (3) 学部等の構成
 学部：文学部、国際コミュニケーション学部
 研究科：文学研究科、国際コミュニケーション研究科（ともに修士課程）
 附置研究所：外国語教育研究所、群馬学センター
- (4) 学生数及び教員数（平成21年5月1日現在）
 学生数：学部930人，大学院37人
 専任教員数：56人

2 特徴

群馬県立女子大学は、昭和55年4月に「国際化社会に対応し得る広い教養と豊かな情操を備えた人材を育成する」という建学の理念を掲げ、文学部の中に国文学科、英文学科、美学美術史学科の3学科を持つ4年制女子大学として設立された。

以来、大きな特徴のひとつである少人数教育や外国語教育研究所設置（平成13年）などの取り組みは、県立の女子大学として一定の評価を得てきたが、社会情勢の変化に応じた改革の必要性も指摘されていた。

このような中、平成15年度以降、「小さくても個性的な大学」を目指し、学長のリーダーシップのもと、大幅な大学改革に着手した。

まず、大学のより一層の国際化を図るため、奨励金による海外留学支援制度を創設。これにより海外留学生が大幅に増加し、現在では毎年、全学部生の10%以上にあたる100名を超える学生が留学するようになった。

また、カリキュラムの大幅な見直しを行い、英語による授業の大幅な増加や、各分野の専門家等の外部的資源を活用した授業科目の開設（これらの多くは県民に公開）など、活力ある大学づくりのため改革を進めてきた。

そして、平成17年には、実践的で高度な英語運用能力と基礎的な社会科学系の知識を身に付け、国際社会で活躍できる人材の育成を目的とする「国際コミュニケーション学部」を新たに設置。この学部は、英語コミュニケーション課程と国際ビジネス課程の2課程からなり、少人数教育、外国人教員の多用、留学支援の充実、TOEICを活用した習熟度別英語教育、CALL（Computer Assisted Language Learning）システムの活用、各国大使や企業経営者などを招聘した授業など、

特色ある教育を行っている。このような取り組みの成果もあり、同学部生のTOEICの成績は劇的な上昇が確認されており、今後の動向が注目されている。

一方、大学改革は入試制度にも及んでおり、平成17年度から両学部においてAO入試を導入。同入試は、本学だけでなく、東京、仙台とあわせ3会場で実施しており、全国から個性的で意欲あふれる学生が入学している。

このような改革が功を奏し、AO入学者に限らず、平成17年度以降の入学生は大変活気がある。授業中、教員とのディスカッションも活発に行っており、他大学を本務とする非常勤教員や外部から招聘した講師陣からの評判も良好で、「小さいながらも個性的な大学」としての評価が確立しつつあると考えている。

また、学生の進路支援も充実させており、1年次からキャリア支援授業を開講。2年次以降は、就職専門員による個別面談を学生全員に対して実施しており、学業から生活面まで、低学年次から学生生活全般にわたってきめ細かいフォローを行っている。さらに、就職を意識した科目を数多く開設している他、3年次からは特訓講座を設けるなど、学生一人ひとりのニーズに対応した手厚い支援を行っている。

地域貢献の分野では、「県民公開授業」や「公開講座」など県民を対象とした講座を多数開講している他、本学では特に、群馬の文化・歴史・風土など、多方面から群馬の特色を探る「群馬学」の確立を目指した取り組みを行っている。中でも各分野第一線で活躍する研究者・経済人・ジャーナリストなどの参加を得て開催する「群馬学シンポジウム」はこれまでに18回を数え、延べ1万人もの県民・学生が参加している。これは、本学の地域貢献の取り組みが、県民に浸透している証である。

この他、施設面においては、平成19年に新館を供用開始し、CALL教室4室と自由パソコンルームの充実により、実践的な英語学習と学生のコンピュータリテラシーの獲得に貢献している。

今後の大きな課題としては、既存施設の老朽化が目立っており、特に附属図書館の改修が強く望まれている。

なお、平成21年度には、文学部に総合教養学科、大学院に国際コミュニケーション研究科を、また研究機関として「群馬学センター」を設置し、さらに、来年度には英文学科を英米文化学科に改編する予定であり、活力ある大学を目指し更なる改革を進めている。

II 目的

本学は、学則第1条において次のように設置目的を定めている。

第1条 群馬県立女子大学（以下「本学」という。）は、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究するとともに、家庭生活の向上及び地域社会における文化の進展に寄与し、更に国際化社会に対応し得る広い教養と豊かな情操を備えた人材を育成することを目的とする。

「地域社会における文化の進展に寄与」することを大学の目的として明記した学則第1条に基づき、正規課程の学生以外に対する教育サービスとして、一般県民を対象として、以下の目的の下、様々な取組等を行っている。こうした取組は、地域社会における文化の進展に寄与するのみならず、県立大学としての本学の存在意義や活動内容についての理解を広く県民から得る上からも有効であると認識している。

「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

1 地域への貢献

授業を公開することにより、一般県民に対して生涯学習の機会を提供するとともに知的欲求の充足を図る等、地域の振興と発展に資する。

2 大学広報の機会としての活用

授業の公開等により、一般県民に本学への来学の機会を提供し、本学の教育研究活動の内容や、大学改革に取り組む積極的な姿勢等についての理解を深めることにより、本学の知名度の向上や大学の評価の向上を図る。

3 大学の活性化

学習意欲の高い県民が授業へ参加することにより、学生の学習意欲の向上や担当教員の意識改革を促す。

本学は地方の小規模大学ではあるが、本学の学生や聴講する地域住民が学内にいながら、日本における学会での最新の見解や現代社会情勢はもとより世界の最新情報や現場の知識を得ることができるようさまざまな工夫を凝らしている。

IV 選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

1 選択的評価事項B 「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

本学は、学則第1条において表B-1のように設置目的を定めている。同条は、「地域社会における文化の進展に寄与」することを大学の目的として明記しており、以下の目的の下、聴講する地域住民が学内にいながら、日本における学会での最新の見解や現代社会情勢はもとより世界の最新の情報や現場の知識を得ることができるよう、さまざまな工夫を凝らした様々な事業に取り組んでいる。

こうした取り組みは、地域社会における文化の進展に寄与するのみならず、県立大学としての本学の存在意義や活動内容についての理解を広く県民から得る上からも有効であると認識している。

1 地域への貢献

授業を公開することにより、一般県民に対して生涯学習の機会を提供するとともに知的欲求の充足を図る等、地域の振興と発展に資する。

2 大学広報の機会としての活用

授業の公開等により、一般県民に本学への来学の機会を提供し、本学の教育研究活動の内容や、大学改革に取り組む積極的な姿勢等についての理解を深めることにより、本学の知名度の向上や大学の評価の向上を図る。

3 大学の活性化

学習意欲の高い県民が授業へ参加することにより、学生の学習意欲の向上や担当教員の意識改革を促す。

表B-1 群馬県立女子大学学則

第1条 群馬県立女子大学（以下「本学」という。）は、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究するとともに、家庭生活の向上及び地域社会における文化の進展に寄与し、更に国際化社会に対応し得る広い教養と豊かな情操を備えた人材を育成することを目的とする。

2 選択的評価事項B 「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の自己評価

(1) 観点ごとの分析

観点B-1-①：大学の教育サービスの目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が周知されているか。

【観点到る状況】

表B-1-①-1 本学における正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

本学では、正規課程の学生以外に対して以下のとおり教育サービスを提供している。

- 1 一般県民向け教育サービス
 - (1) 県民公開授業
 - (2) 群馬学の確立に向けた取組
 - (3) 県民公開講座・出前授業・出前講座
 - (4) 聴講生・特別聴講学生等
- 2 外国語（英語）に関する教育サービス
 - (1) シンポジウム・講演会
 - (2) 県民英会話サロン「グローバルカフェ」
 - (3) 明石杯高校生英語コンテスト
 - (4) 小学校英会話活動推進事業

学則に大学の目的として定めた「地域社会における文化の進展」の達成のために、本学で実施している数々の正規課程の学生以外の者に対する教育サービスの態様毎に実施計画を立て、周知している。

ア 一般県民向け教育サービス

県民公開授業・県民公開講座については、毎年度末に翌年度の授業（講座）計画を立て、周知用リーフレット（基準5 資料5-1-①-4）を作成し、年度当初に、過去の受講者に対してダイレクトメールにて送付するとともに、大学ウェブサイトに掲載（表B-1-①-1）することによって周知を図っている。

特に、本学の県民公開授業については、多くの授業科目（平成20年度で16科目）県内外の著名人、文化人、経済人等を毎週講師として招聘する全国的にも類を見ない特色ある授業科目群となっていることから、招聘する講師の予定が決定次第、マスコミ等各種メディアへ情報提供している。その特殊性から各種メディアにおいても、取り上げられることも多い（表B-1-①-2）。

群馬学の確立に向けた取組については、年間3回程度の群馬学シンポジウムの開催が活動の中心である。シンポジウムのテーマは、群馬に関して多岐にわたるものであるが、年間のテーマについての開催計画は、各年度当初に決定し、具体の日程、パネリスト及び基調講演講師等の詳細が決定次第、個々のシンポジウムの開催計画を各種メディアへの情報提供、チラシの配布を通して広く一般に周知している（基準5 資料5-1-①-4）。また学内ウェブサイト「群馬学」の確立に向けた取組の専用ページ（表B-1-①-3）を設け、取組内容の周知を図っているほか、シンポジウムの概要をまとめた記録集『群馬学の確立にむけて』をこれまでに第3巻まで刊行し、一般書店にて販売し、読者から好評を得ている（表B-1-①-4）。

聴講生、特別聴講学生、科目等履修生、研究生については、学外者からの申請に基づく許可という行政行為を含むため、学則第27条（聴講生）、第28条（特別聴講学生）、第28条の2（科目等履修生）、第29条（研究

生)に明示(表B-1-①-5)し、各々規程(聴講生規程、特別聴講学生規程、科目等履修生規程、研究生規程)を整備している。

その周知については、概要をウェブサイト公開しているほか(表B-1-①-6)、毎期の募集期間前には、群馬県広報のメディアを活用している。

イ 外国語(英語)に関する教育サービス

外国語(英語)に関する教育サービスは、外国語教育研究所が担当しており、外国語教育研究所運営委員会(表B-1-①-8)が年度当初に教育サービスの年間授業計画を策定している。個々の事業については、大学ウェブページに掲載しており、一般県民への周知(表B-1-①-10、11)がなされている。また、小学校教員を対象とした英語会話教室など、県教育委員会とのコラボレーションによる事業も多く、県内の教育事務所や県内の各学校を通じて周知がなされている。

表B-1-①-1 大学ウェブ 公開授業等

http://www.gpwu.ac.jp/ext/index.html

The screenshot shows the website for Gunma Prefectural Women's University. The header includes the university name and navigation links. A menu bar lists various categories like 'University Extension', 'Public Lectures', and 'Open Lectures'. The main content area features a section titled '公開講座等インデックス' (Public Lecture Index) with a list of links: '群馬学連続シンポジウム', '公開授業', '公開講座', and '出前講座'. Below this, there is a detailed description of the '公開授業' (Open Lectures) program, explaining that it involves releasing regular classes to the general public and is often held off-campus. It also mentions that the program is free of charge for students and staff.

表B-1-①-2 公開授業に係る新聞記事

日付	新聞	見出し
H17.5.28	朝日	10カ国の大使交代で出張協議
H17.7.17	上毛	河合文化庁長官日本の神話講義
H18.4.1	上毛	「ことばと文化」学ぶ
H18.4.2	朝日	県立女子大県民公開授業「日本のことばと文化」
H18.5.10	朝日	著名人も登場テーマ多彩に
H18.5.17	上毛	モンゴルの魅力を学ぶ
H18.5.24	日経	ビジネスリーダー教壇に
H18.6.19	上毛	源氏物語通し女性論
H18.6.27	上毛	蚕糸業の伝統に関心
H18.6.28	毎日	知事訪問し会談
H18.6.28	読売	エジプト大使が本県と「交流を」
H18.7.30	上毛	社会人向け多彩に
H18.10.18	毎日	中山首相補佐官が県立女子大で講演
H18.10.18	産経	「あらゆる手尽くす」
H18.10.18	読売	中山首相補佐官拉致問題で講演
H18.10.18	上毛	中山補佐官拉致問題語る
H18.10.23	上毛	働く女性講師に県民公開授業
H19.6.30	読売	第一線の企業人らが講師 ブランド語る一般講座
H19.7.15	上毛	ブランドと脳の関係語る 県立女子大で茂木さんが講演
H19.7.20	上毛	「日本の言葉と歌を大切に」 県立女子大で由紀さん講演
H19.7.24	毎日	来月11日「県女で映画を観るキャンペーン」開催
H19.7.31	朝日	パニックへの備え「映画で学んで」 県立女子大生ら自主上映会
H19.8.4	上毛	県立女子大の映画会に藤岡さん
H19.11.9	上毛	河野外務審議官講師に公開授業
H19.11.21	上毛	「心つながるのが外交」河野外務審議官が講演
H20.3.4	上毛	群馬の方言特徴解説 県立女子大篠木教授「生活を知る手段に」
H20.6.1	上毛	国際理解、平和考える 県立女子大大使ら招きリレーで
H20.6.15	上毛	ブランド論で県民公開授業 20日から県立女子大
H20.7.13	上毛	ペヤング誕生秘話を紹介 まるか食品丸橋会長講演
H20.7.16	上毛	時の話題
H21.1.22	ぐんま経済	当事者として福祉論 県立女子大で妹尾さん

表 B-1-①-3 大学ウェブ 群馬学シンポジウム

http://www.gpwu.ac.jp/ext/gunma_studies/index.html

表 B-1-①-4 群馬学シンポジウム記録集

巻数	発行期	販売部数
1巻	H17.3	1,167
2巻	H18.3	995
3巻	H21.1	

※ H21.5までに3巻を発行

※ 販売部数は、大学内での実績のみで、書店販売分を含まない

表 B-1-①-5 学則 第27条～29条

第10章 聴講生、特別聴講学生、科目等履修生、研究生及び外国人留学生 (聴講生)

第27条 学長は、本学において特定の授業科目を聴講することを志望する女子があるときは、選考の上、聴講生として聴講を許可することができる。

2 聴講生に関する事項は、別に定める。

(特別聴講学生)

第28条 学長は、他の大学の学生で、本学において特定の授業科目を履修することを志望する者(当該他の大学との単位互換に関する協定に基づく特別聴講学生以外の特別聴講学生にあつては、女子に限る。)があるときは、当該他の大学との協議に基づき、選考の上、特別聴講学生として聴講を許可し、単位の修得の認定をすることができる。

2 特別聴講学生に関する事項は、別に定める。

(科目等履修生)

第28条の2 本学の学生以外の女子で、本学の一又は複数の授業科目の履修を志望するものがあるときは、選考の上、科目等履修生として履修を許可し、単位を与えることができる。

2 科目等履修生に関する事項は、別に定める。

(研究生)

第29条 学長は、本学において特定の専門事項について研究することを志望する女子があるときは、選考の上、研究生として研究を許可することができる。

表 B-1-①-6 聴講生等の申込方法

http://www.gpwu.ac.jp/exam/dep/occ_stu_apl.html#0001

学部入試情報 - 平成21年度 学部聴講生等申込方法 -

聴講生、科目等履修生、研究生の申込方法は次表のとおりです。それぞれ若干申込方法等が異なりますので、ご注意ください。
出願書類の様式については、それぞれPDFファイルを用意しておりますので、ダウンロードの上、印刷していただき、ご利用ください。様式の用意されていない書類(「最終学校の卒業(見込み)証明書」など)については、それらを発行する機関の書式で構いません。

■ 聴講生

内容	本学の学生以外の方が、一般の学生と同じ授業科目を聴講する制度です。生涯学習の場として主に社会人の方を対象としています。単位の修得はできませんので、単位修得を希望される場合は科目等履修生制度をご利用下さい。
募集	文学部(国文学科・英文学科・美学美術史学科・総合教養学科)※女性の方のみ 国際コミュニケーション学部(英語コミュニケーション課程・国際ビジネス課程)※女性の方のみ 大学院文学研究科(日本文学専攻、英文学専攻、芸術学専攻) 大学院国際コミュニケーション研究科(国際コミュニケーション専攻)
入学時期	原則として学年始め又は学期始め
聴講期間	平成21年度前期:平成21年4月9日(木)～平成21年8月5日(水) 平成21年度後期:平成21年10月1日(木)～平成21年2月12日(金) (※12月23日～1月7日は冬季休業期間)
開講科目	原則として語学、演習、実技および実習科目を除く授業科目を聴講することができます。 開講科目の詳細は、PDF 文学部開講科目表 PDF 国際コミュニケーション学部開講科目表 PDF 大学院文学研究科開講科目表 PDF 大学院国際コミュニケーション研究科開講科目表 PDF 学部臨時開講(H21) PDF 大学院時間割(H21) PDF シラバス(H20:参考)をご確認ください。

表 B-1-①-7 外国語教育研究所運営委員会構成員

所 属	職 名
外国語教育研究所	所 長
外国語教育研究所	副所長
文学部国文学科	講 師
文学部英文学科	准教授
文学部美学美術史学科	教 授
国際コミュニケーション学部	教 授
国際コミュニケーション学部	教 授
国際コミュニケーション学部	講 師
国際コミュニケーション学部	准教授
外国語教育研究所	研究員

表 B-1-①-8 外国語教育研究所の活動内容

■ 一般対象事業

英語能力に関する提言
英語能力に関する新提言
シンポジウム・講演会一覧
グローバルカフェ概要

■ 学生対象事業

海外留学支援制度
大学授業の担当

■ 高等学校生徒対象事業

明石杯高校生英語コンテスト概要
明石塾

表 B-1-①-9 外国語教育研究所 グローバルカフェの例

グローバルカフェ

外国語教育研究所では、県民誰もが気軽に立ち寄り、少人数グループにより英語で談話できる機会を提供しようと、平成13年11月から群馬県庁昭和庁舎で県民英会話サロン「グローバルカフェ」を開催しています。幸一シンガロは、グローバル「化」時代を意識して、グローバルカフェの「カ」の字をあえて平仮名で表記しています。

サロンには、第8時10分後半から上は70代まで幅広い年代の県民が参加し、アットホームな雰囲気の中、英会話を楽しんでいきます。参加者の話相手となるのは、当研究所の研究員及び英会話指導助手(ALT)等の人たちです。

場所：群馬県庁昭和庁舎 1階フロアー
日時：下表のとおり 18:30から20:00まで
※ 事前申込は必要ありません。直接会場へおいでください。
※ 現在参加者が多いため、2つのグループに分けて開催しています。

グローバルカフェ グループ・トピック(2009年1月以降)

期日	曜日	トピック	グループ	備考
1月22日	木		A	
1月29日	木	Natural Disasters	B	
2月5日	木		A	
2月12日	木	Current Events	B	
2月19日	木		A	
2月26日	木	Modern Day Problems	B	
3月5日	木		A	
3月12日	木	Fact or Fiction	B	
3月19日	木	Potluck Party	AB	

(基準5参照)

資料 5-1-①-4 (別添) 群馬県立女子大学公開授業・公開講座・群馬学連続シンポジウムリーフレット

【分析結果とその根拠理由】

学則上の目的である「地域社会における文化の進展」を達成するために、実施計画は、提供する教育サービスの態様にあわせて、個々具体的に計画が立てられている。開催に当たっては、大学ウェブページへの掲載の他、各種メディアへの情報提供、過去の参加者への案内等を通じて、多くの学外者に対して周知を行っており、後述の参加実績を見ても周知活動は十分実施されていると言える。

本学における正規の学生以外に対する教育サービスは、参加人数の多さや内容の特殊性から、開催前の情報提供のみならず、開催結果についても各種メディアに取り上げられることが多々ある。新聞等の報道では、開催予定や開催結果と併せてその趣旨も記載されるため、目的と計画が一般県民に対して十分に周知されていると言える(基準2 資料 2-1-⑤-3)。

観点B-1-②： 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

前観点に記載した計画に基づき、以下のとおり教育サービスを提供している

1 一般県民向け教育サービス

(1) 県民公開授業

県民公開授業は、おもに学外の各分野の専門家等の外部知的資源を活用したオムニバス形式の授業を一般県民に公開するもので、平成16年度から毎年度実施している。その内容としては、全国の高等教育機関に比しても極めて多種多様なものであると自負している。

例えば、各国の駐日大使やNGOメンバーによるリレー授業、著名な作家・文化人・研究者による「美しい日本語」の授業、群馬県内の郷土研究者や文化人による「群馬」を考える授業、映画監督・評論家・研究者による「映画と英米文化」に関する授業、芸術の現場で活躍する方を招くプログラム、航空業・観光業・製造業・流通業等各民間企業の第一線で活躍しているビジネスリーダーや、国際社会の様々な

分野の第一線で活躍している女性リーダーによる授業など、各界の著名人・文化人・経済人等を毎週招聘する授業科目を、平成20年度においては16科目開講した。本学は地方の小規模大学ではあるが、本学の学生や聴講する地域住民が学内にいながら、日本における学会での最新の見解や現代社会情勢はもとより世界の最新の情報や現場の知識を得ることができるよう、さまざまな工夫を凝らしている。

(2) 「群馬学」の確立に向けた取組

「群馬学」とは、古くから人や物、様々な文化が交わり独自のことばや文化を形成してきた「群馬」について、様々な角度や視点から調査・研究し、広く意見交換することを通じて、「群馬」の魅力や諸問題を再認識し、人や文化が抱える普遍的な課題を問い直すことにより、新たな地域文化の創造に繋げていくことを目指し、本学学長が平成16年度から提唱している地域学である。

特に各分野で活躍する県内外の有識者を招いて開催する「群馬学連続シンポジウム」は、これまでに15回、また県民局との共催による地域版シンポジウムも3回開催し、延べ1万人にも上る参加者を得ており、これらの取り組みは、マスコミにもたびたび取り上げられている。県内外の関心の高まりに応じて、「群馬学」という言葉も徐々に浸透し、定着してきている。

(3) 県民公開講座・出前授業・出前講座

一般県民に生涯学習の機会を提供し、地域振興に資することを目的として、県民を対象とした講座を開催している。大学で行う公開講座のみならず、高等学校からの要請により本学教員が赴き授業を行う出前授業、地域の団体やサークル等の求めにより教員を派遣する出前講座にも積極的に取り組んでいる。

(4) 聴講生、特別聴講学生、科目等履修生、研究生

本学の学生以外の者に対して、本学に開設されている特定の授業科目の聴講若しくは履修又は特定の専門事項についての研究を許可することにより、学修機会を提供する。内容的に学外の県民の参加が馴染まない授業科目を除き、多くの授業科目を聴講又は履修の対象としている。

2 外国語（英語）に関する教育サービス

一般県民を広く対象とした教育サービスの提供に加えて、本学は設置目的の一つに「国際化社会に対応しうる広い教養と豊かな情操を備えた人材の育成」を掲げていることから、本学附属の機関である外国語教育研究所では、外国語に関する様々な取組みを行っている。学校教育を含め県民全体の英語能力向上を視野に入れ、外国語教育（特に英語教育）全般に係る情報収集を行うとともに、一般の教員や県民等、多様な人々を対象とする研修やコミュニケーションの場の提供、さらには、本学学生への英語授業等を通して、一般県民から学生までの英語能力向上のためのノウハウの開発や蓄積を、極めて実践的かつ実証的な研究という形で行い、成果を広く県民に還元している。

（*外国語教育研究所ウェブサイト <http://www.gpwu.ac.jp/org/ins/index.html>）

その代表的な取組みが、平成13年度以降3回にわたって当研究所が策定している「英語能力の向上に関する提言（平成21年6月現在、第3回目の提言を策定中）」である。この提言は、群馬県の英語教育全般に関する提言であり、本学のみならず、群馬県庁各部局が連携して、各種事業を当該提言に基づき実施している。

例えば、群馬県生活文化部国際課が主催している「明石塾」は、柔軟な発想ができる多感な高校生に実践的な研修や体験をさせることによって、国際舞台で活躍できる高い志と行動力に富んだ若者を育てることを目的とした活動で、本研究所のネイティブ研究員が研修を担当するなど、本研究所がその運営に協力している。

その他、本学では、正規学生以外の者に対する教育サービスとして、以下の事業を実施している。

(1) シンポジウム・講演会

英語、国際化、国際理解といったテーマを取り上げ、主に県内の高校を会場として、高校生等の一般県民を対象として講演会及びシンポジウムを開催している。

(2) 県民英会話サロン「グローバルカフェ」

県民誰もが気軽に立ち寄り、少人数グループにより英語で談話できる機会を提供することにより、県民の英語能力向上及び多文化理解を促す。年間を通してほぼ毎週1回開催している。

(3) 明石杯高校生英語コンテスト

県内の高校生に対して、英語で自らの意見を発表する機会を提供することにより、英語によるコミュニケーション能力の向上に寄与することを目的として、群馬県教育委員会・群馬県高等学校教育研究会英語部会との共催により実施している。さらにコンテスト成績優秀者には、異なる文化圏での生活の実態・習慣・物の見方、考え方を学び、国際親善及び交流を深めることを目的として、一週間程度の海外研修を副賞として用意している。

(4) 小学校英会話活動推進事業

新学習指導要領により小学校5、6年生の英語活動の必修化が決定されたが、英語を専門としない小学校教員の中には、授業中における英語の使用、ALTとの英語による打ち合わせに不安を感じている者が多いという現状を踏まえ、小学校教員が、英語のネイティブ・スピーカーと接し、英語によるコミュニケーションに親しむことにより、充実した英語活動を考える機会を提供することを目的として「小学校教員英会話講座」を実施している。

また、県内の館林市教育委員会との連携により、英語活動を推進するために、①教授法の指導、②授業教材の開発援助、③公開授業の指導、④講演会の協力、⑤その他について館林市から委託を受け、館林市内の小学校2校を研究指定校として、支援及び研究を行っている。

(基準2参照)

資料2-1-⑤-2 (別添)「英語能力の向上に関する提言」、「新・英語能力の向上に関する提言」

*大学ウェブサイトにも掲載 <http://www.gpwu.ac.jp/org/ins/index.html>

【分析結果とその根拠理由】

各事業とも事業毎の実施計画に基づいて適正に教育サービスの提供が行われたと言える。

観点B-1-③： 活動の結果及び成果として、活動への参加者が十分に確保されているか。また、活動の実施担当者やサービス享受者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

【観点に係る状況】

正規課程の学生以外に対する教育サービス活動への参加者は、平成20年度において、県民公開授業への参加者が2,730人、公開講座への参加者が1,725人、群馬学シンポジウムへの参加者が1,420人、聴講生等の制度への参加者が47人、外国語教育研究所のグローバルカフェへの参加者が1,469人、明石杯高校生スピーチコンテスト参加者が210人と、各事業への参加者は1年間で約7,600人にも達している(表B-1-③-1~8)。

また、本学で集計した受講者アンケートによると、集計した県民公開授業に対する満足度は、94.3%が期待どおりの満足を得たと回答し(表B-1-③-9)、公開講座における満足度は89.2%が満足したと回答している(表B-1-③-10)。ほとんどの受講者が各講座等に満足を得ていることが伺える。

表 B-1-③-1 群馬学シンポジウム参加者数の推移

(単位:人)				
16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
1,830	1,349	1,691	1,631	1,420

表 B-1-③-2 平成20年度群馬学シンポジウム実施状況

	回数／開催テーマ／開催日時等	主な講師・パネリスト	参加者数
H 20	■第13回〈群馬の音楽家たち〉 平成20年7月26日(土)13:20～16:30	風岡裕子(ピアニスト) 田中則之(元ミュージアム川崎シンフォニーホール総支配人)	512
	■第14回〈明治維新と群馬〉 平成20年10月25日(土)13:00～16:15	鈴木健次(大正大学名誉教授、元NHKディレクター) 松井今朝子(小説家)	414
	■第15回〈伊藤信吉と群馬〉 平成21年1月31日(土)13:00～16:15	岡田芳保(県立土屋文明記念文学館長) 久保田穰(詩人)	423
	◇地域版③ 群馬学ミニシンポジウムinおた 〈ビジネスと歴史文化の融合する街～太田の魅力と展望～〉 平成20年11月24日(月・振休)13:00～16:00 縁切寺満徳寺復元本堂／東部県民局共催	天野安喜子(宗家花火鍵屋15代目当主) 正田 寛(太田商工会議所会頭)	71

表 B-1-③-3 平成20年度 県民公開授業実施状況

授業名	回数	主な講師	県民出席者
「美しい日本語」	前期	演出家、エッセイスト 鴨下信一 同時通訳者 鳥飼玖美子 書 家 石川九橋	1,169
「わたしの群馬」	前期	ベルツ記念館館長 沖津弘良 彫 刻 家 吉田光正 中央群馬脳神経外科病院医師 中島英雄	257
「国際理解と平和」	前期 ～後期	ニュージャーナル、イスラエル、レソト王国など7カ国大使等、 国際NPO団体代表、元国連事務次長 明石康氏ほか	250
「ハリウッドとは何か」	前期	映画監督 清水 崇 映画評論家 村山隆一郎 ミニシアター「ユロスベース」代表 堀越謙三	49
「群馬の歴史と文化」	前期	群馬大学教授 落合延高 群馬大学非常勤講師 田中康雄 前橋国際大学名誉教授 石原征明	194
「群馬の文学」	前期	本学国文学科教授 安保博史	45
「ブランド論」	前期	まるか食品㈱代表取締役会長丸橋八重子 高崎弁当㈱代表取締役 芝 基紘 ㈱福一代表取締役社長 福田明英	116
「群馬の生活文化」	前期	伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館 館長 板橋春夫	70
「アメリカ文化の決定的瞬間」	後期	本学英文学専任教員によるリレー講座	23
「ヒロイン・ヒーローのアメリカ」	後期	早稲田大学教授 有馬哲夫 慶應義塾大学教授 巽 孝之	57
「芸術の現場から」	後期	映画監督 松本俊夫 能楽大蔵流小鼓宗家 大倉源次郎 東京シテイル・関西フィル常任指揮者 飯守泰次郎	97
「国際舞台の日本人」	後期	元丸紅(株)副社長 松村 洋 元(株)住友化学シカゴホール副社長 永尾経夫 元山之内製薬(株)常務 上野正安	123
「女性の新しい生き方を見つけよう」	後期	ライター・ジャーナリスト 西川洋子 三井物産㈱ 高橋真理 インフォステック/ロジス 井上朋子	28
「群馬のことば」	後期	本学国文学科教授 藤木れいこ	89
「群馬の経済と社会」	後期	前井上工業㈱代表取締役会長 山岸俊之 群馬日産自動車㈱代表取締役社長 天野洋一 ㈱群馬銀行代表取締役相談役 吉田恭三	55
「群馬のことばと文化」	後期	国立国語研究所名誉所員 佐藤亮一 詩 人 久保田穰 前橋工科大学教授 小林龍彦	108
合 計 (出席者延べ人数)			2,730

表 B-1-③-4 平成20年度 公開講座実施状況

講座名		参加者数
源氏物語の魅力ー「明石」の巻ー（全6回）		1,163
芸術の世界	桃山から江戸期の小袖文様	90
	江戸の絵を愉しむ	99
	ギリシア悲劇における母と娘の愛憎ーエレクトラ・コンプレックスについてー	56
ことばと詩歌	現代詩の魅力	43
	何が言語を育むのか	29
映像へのまなざし	「ふつうの映画」ができるまでーハリウッド映画の軌跡ー	50
	アメリカン・シーン、イメージの誘惑	28
多文化の世界	英語教育と真実	61
	「うまい情報」とうまくつきあう大人の方法	42
	ハプスブルク王朝の「悲劇」	64
合計		1,725

表 B-1-③-5 平成20年度出前講座・出前授業実施状況

区分	年度	平成20年度
出前講座（市町村公民館等）		41講座46日間
出前授業（高等学校等）		22講座27日間
計		63講座73日間

表 B-1-③-6 聴講生等の状況(平成18年度～20年度)

学部

年度	聴講生	科目等履修生	研究生	特別聴講学生	計
18	23	7	2	5	37
19	19	10	1	4	34
20	33	2	1	3	39

大学院

年度	聴講生	科目等履修生	研究生	特別聴講学生	計
18	1	1	1	－	3
19	3	－	2	－	5
20	3	1	4	－	8

表 B-1-③-7 グローバル・カフェ 参加者数の推移

	総数	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
開催回数	274	16	41	40	40	33	32	37	35
総参加者数	13,111	817	2,004	2,194	2,153	1,845	1,469	1,514	1,115
1回あたり平均人数	47.9	51.1	48.9	54.9	53.8	55.9	45.9	40.9	31.9

表 B-1-③-8 平成20年度 明石杯高校生英語コンテスト実施状況

	本大会						地区予選
	男	女	1年	2年	3年	計	
レシテーション	1	21	13	7	2	23	131
スピーチⅠ	5	16	6	10	5	21	59
スピーチⅡ	1	9	3	7	0	10	
プレゼンテーション	5	5	2	8	0	10	
計	12	51	24	32	7	63	
					参加総数		210

表 B-1-③-9 平成20年度 公開授業「国際理解と平和」における満足度(全12回の集計)

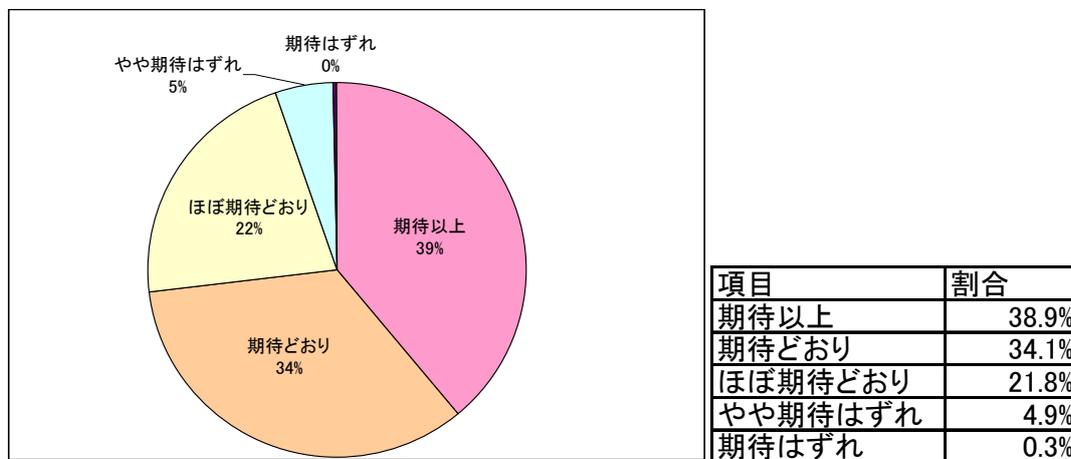
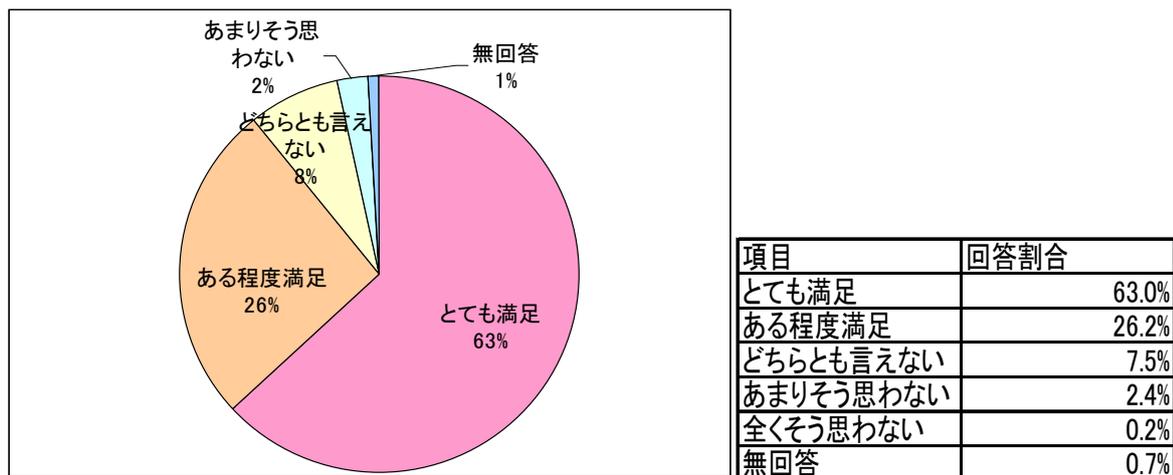


表 B-1-③-10 平成20年度群馬県立女子大学公開講座における満足度(全11講座の集計)



【分析結果とその根拠理由】

一年間の活動への参加者が7,000人を超えており、学生数1,000名弱の大学規模から見て、本学の正規の学生以外の者に対する教育サービスの提供は、非常に活発であり、活動への参加者は、十分に確保されていると言える。

平成17年度に現在のラインナップが揃って以来、参加者は、毎年1万人近くに達している状況で、毎回の事業を楽しみにしている「常連者」がおり、本学からの年間計画を掲載したチラシの配布を待ちわびている者も多く、チラシの配送が遅れた場合又は手違いによりチラシ発送の対象から漏れた場合には、苦情の連絡を受けることもある。これらの事実は、学則に掲げた「地域社会における文化の進展に寄与」するという目的達成のため、本学が積極的に取り組んでいることの証であると言える。

また、各種アンケートの結果から、受講者が満足を得ていることが把握できることから、活動の成果が十分に上がっていると判断できる。

観点B-1-④： 改善のための取組が行われているか。

【観点に係る状況】

個々の事業において、受講者アンケートを実施し、受講者の意見を徴する機会を作っている他、一般県民向け教育サービスについては事務局教務係及び各担当教員が、英語に関する教育サービスについては、外国語教育研究所が中心となって、改善策を検討しており、次年度の講師選定にアンケート意見を反映させている。ただし、人員及び資金不足のため、アンケートの実施がなされてはいない事業もある。

【分析結果とその根拠理由】

各事業とも、毎年度ごとに実施計画を策定しており、アンケート等の参加者意見や運営上の反省点を踏まえて改善を行っている。

(2) 目的の達成状況の判断

本学の正規の学生以外に対する教育サービスの取組内容は、前述のとおりであり、地域社会における文化の進展に寄与するという目的は、十分達成できているものと判断する。

(3) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

本学では、学則に定めた設置目的に「地域社会における文化の進展に寄与」すること及び「国際化社会に対応しうる広い教養と豊かな情操を備えた人材の育成」を明示しており、個々の事業計画の下、以下のとおり、様々な事業を実施している。

- ① 公開授業や公開講座により、地域住民の知的欲求を満たし、特に各界の著名人・文化人・経済人等を毎週招聘する授業科目では、群馬に居ながら、日本における学会での最新の見解や現代社会情勢はもとより世界の最新の情報や現場の知識を得ることができるよう工夫を凝らしている。
- ② 「群馬」について、文化・経済・市民生活など多方面から検証し、その特性を明らかにする取組である「群馬学」の確立に向けた取組を行うことで、地域住民の学習機会の提供の幅を広げている。さらに深く専門分野を学修したい者や研究したい者に対しては、聴講、科目履修等の制度が活用でき、対象者の学習意欲や興味に応じて、幾重にも教育サービスが提供できる体制となっている。

- ③ 「英語」という観点からは、「グローバルカフェ」により英語初級者に本物の英語体験の機会を提供し、「スピーチコンテスト」により高校生に実際の授業の幅を上げ、「公開シンポジウム」で英語との関わり方を考える機会を提供、「小学校教員英会話講座」では、学習指導要領を先取りする形で義務教育体制の補完を行うなど、様々な地域の学習ニーズに対応しており、多様な教育サービスの提供を行っている。

これらの事業には、毎年多くの県民が参加しており、聴講者の満足度も高い状態となっている。

【改善を要する点】

参加者からは、満足している様子が伺えるものの、人員及び資金不足のため、全ての事業においてアンケートが実施されている状況ではない。今後、これらの教育サービスの内容をさらに充実させるためには、少しでも多くの事業において参加者の様々なニーズを把握するよう努めることが必要である。

(4) 選択的評価事項Bの自己評価の概要

本学では、「地域社会における文化の進展に寄与」という目的を達成するため、多面的に教育サービスを行っている。対象者の面では、一般県民を広く対象とした教育サービスを提供しながら、専門的知識の修得についての要求にも対応している。分野の面では、本学専任教員の担当分野を学ぶ機会となる公開講座や聴講・科目履修等の制度を用意している他、地元群馬について多方面から検証していく「群馬学」の取組や各方面の専門家を招聘した公開授業等、一般県民を対象に幅広い分野のメニューを用意している。

また、「国際化社会に対応しうる広い教養と豊かな情操を備えた人材を育成すること」を目的の一部としている本学では、学校教育を含め、群馬県の地域社会全体の英語能力向上や国際理解を深めることを視野に入れた多様な教育サービスを行っており、いずれも受講者の好評を得ている。

以上から、本学は、正規の学生以外の者に対して「地域社会における文化の進展に寄与」及び「国際化社会に対応しうる広い教養と豊かな情操を備えた人材を育成」という2つの目的を達成している。